

◆特集 定年後再雇用賃金の減額



一人勤務駅で苦闘している筆者

待望の鉄道で仕事、40数年働いて私は1960年生まれです。1978年に鉄道高校を卒業し、希望であった鉄道会社・京成電鉄(株)に入社しました。駅職場で42年の勤務を経て、2020年3月末に60歳企業定年を迎えました。同年4月より「駅務掛・再雇用嘱託社員」として働き、現在に至っています。

正社員として入社し、京成電鉄で40年間働いてきました。昇級・昇格等の面では、同期入社仲間や後輩たちと若干の差別は受けましたが、毎年の春闘で闘ってきたおかげで、決して満足はしていませんが年2回の臨時給も含めて少しずつではありますが上がっています。

一人勤務で作業は二倍、年収は半分以下

京成電鉄(株)

駅務掛再雇用嘱託社員

星 俊明

ました。

私が勤め始めた頃は、駅職場もまだ機械化などされておらず、改札業務、定期券や乗車券の発売、ホームでの旅客案内など、私たち人間の力で行っていました。しだいに、自動改札機や自動券売機(乗車券だけでなく、特急券や定期券など何でも買えるマルチ券売機)が導入され、ホームでの案内は自動放送になり、私たちの仕事は奪われていってしまいました。

周りから見れば「機械がやってくれるから良いじゃないか?」と、思われるかもしれませんが、機械の電源を立ち上げるのも、機械が故障したら修理するのは私たち人間です。機械やコンピュータは、壊れても自分で直すことは出来ません。ちよつとでも電源の入れ忘れなどするものならば、「営業事故」として会社にも、最悪にはマスコミやSNSにも叩かれてしまいますので、常にプレッシャーを抱えていなければなりません。私なんかメカに弱いので特に感じます。

再雇用嘱託社員になり、年収4割弱になる

正社員時代は、職場での人員不足のなか、あまりやりたくなかった公休（休日）出勤や時間外労働もやらされたおかげで、定年前（駅務主任）には、年収800万円くらいありましたが、再雇用となった以降は、本給は（諸手当込み）21万円と正社員時代よりも半分位に下げられてしまいました。年間臨時給に至っては、正社員時には年間（平均）5・38ヵ月分でした。駅務掛再雇用嘱託社員は、年間（夏・冬）合わせて一律50万円で、約四分の一に下げられてしまいました。

諸手当についてはもつとひどいです。労働基準法で定められている時間外手当や休日出勤手当、深夜・夜勤手当は法定どおり付きますが、会社内で諸先輩たちが永年闘い取ってきた扶養手当や住宅手当などは基本給21万円に入っていると言ひ、付きません。

そのくせ、作業内容は正社員時代とほとんど変わりません。それは、駅務主任も駅務掛も毎日「作業ダイヤ」で決められた内容の作業をしているからです。近年は、合理化や人員削減によって逆に作業量は増してきました。私の場合、一人勤務駅にさせられた駅に異動で配属されたために、それ以前、二名で行っていた作業を一人勤務で行うようになったので労働強化の上、賃金が

大幅に削減されています。

ちよつとでもミスを犯せば、年下の上司からは嫌みも言われ、ましてやメカオンの私にとってはますますきつくなってくるばかりです。

法改正で、手当は正社員並みに

京成電鉄（株）も法改正により、私たち再雇用嘱託社員にも、家族給（配偶者・子・親などの扶養者）や宿泊手当（泊り勤務で一日1080円）、住宅手当が2020年4月1日から正社員並みに付くようになりました。てつきり本給21万円は変わらないと思っていたが、住宅手当等で支給していたとする9100円が引かれ、本給は20万9000円に下げられました。

各種保険料や税金等、毎月引かれる金額は変わらず、物価は上がるばかり、賃金は下げられ、生活は苦しくなるばかりです。

今後、定年や年金支給年齢が引き上げられると噂で聞きます。それでは身体も持たず、生きていられるかも心配です。国は防衛費等に金を使わず、もつと私たちシニア世代を大事にして、楽しい老後生活を過ごさせてもらいたいのです。

（ほし としあき）